

第1回部活動地域移行準備委員会

日時：令和4年11月29日（火） 18時00分

場所：虹のプラザ「中会議室」

次 第

1. 開 会

2. あいさつ

3. 協 議

(1) これまでの経緯と町内の状況

(2) 意見交換

(3) 今後の方針

(4) その他

4. 閉 会

部活動地域移行準備委員会委員名簿

	氏名	役職・所属団体
1		大石田町教育長
2		大石田中学校校長
3		大石田中学校PTA会長
4		大石田南小学校校長
5		大石田南小学校PTA会長
6		大石田小学校校長
7		大石田小学校PTA会長
8		大石田北小学校校長
9		大石田北小学校PTA会長
10		大石田町スポーツ協会会長
11		大石田町スポーツ推進委員会会長
12		大石田スポーツ少年団本部長
13		大石田スポーツクラブ会長
14		大石田町芸術文化協会会長
15		学識経験者

		教育文化課長
		学校教育主幹
		生涯学習主幹
		主査
		主事補

3. 協 議

(1) これまでの経緯と町内の状況

① これまでの経緯

中学校の部活動は、生徒の自主的・主体的な参加による活動を通じて、達成感の獲得、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するとともに、自主性の育成にも寄与するものとして、大きな役割を担ってきた。

また、学校教育の一環として行われる部活動は、異年齢との交流の中で、生徒同士や教師と生徒等の人間関係の構築を図ったり、生徒自身が活動を通して自己肯定感を高めたりするなどの教育的意義だけでなく、参加生徒の状況把握や意欲向上、問題行動の発生抑制など、学校運営上も意義があった。

一方で、こうした学校の部活動を巡る状況については、近年、特に持続可能性という面でその厳しさを増している。例えば、現在、小学校児童数の減少に加え、いよいよ中学校生徒数の減少が加速化するなど深刻な少子化が進行している。また、この人口の減少傾向は、都市部に比べて、地方においてより加速しており、地域間格差の拡大にも大きな影響を与えていると考えられる。

さらに、中学校の部活動においては、競技経験のない教師が指導せざるを得ない点、休日も含めた運動部活動の指導や大会への引率、運営への参画が求められる点など、教師にとって大きな業務負担となっている実態も見過ごすことができない。他方、児童生徒の育成は学校、家庭及び地域において担われている中で、地域のスポーツ団体や指導者、施設などの資源と学校との連携・協働が十分ではない状況もみられる。

学校における部活動に関する厳しい状況については、中央教育審議会や国会等においても指摘されてきており、これまでスポーツ庁においても、運動部活動の適正化に向けた改善方策や、地域との連携・協働や地域への移行の方向性が示されてきたところである。

(中略) また、国会においても、(中略)「部活動を学校単位から地域単位の取組とし、学校以外の主体が担うことについて検討を行い、早期に実現すること」が指摘された。

さらに、令和2年9月には、スポーツ庁から「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」が示され、その中では、「中央教育審議会の答申や給特法改正の国会審議において、『部活動を学校単位から地域単位の取組とする』ことが指摘されている。」「今回はその第一歩として、学校の働き方改

革も考慮した更なる部活動改革の推進を目指し、部活動ガイドラインで示した『学校と地域が協働・融合』した部活動の具体的な実現方策とスケジュールを明示するものである」とされ、具体的なスケジュールとして、「令和5年度以降、休日の部活動の段階的な地域移行を図るとともに、休日の部活動の指導を望まない教師が休日の部活動に従事しないこととする」と示された。

(令和4年6月、運動部活動の地域移行に関する検討会議提言より抜粋)

これらを受け、山形県でも令和4年3月に部活動改革のイメージが示された(別紙1)。

当町においても、休日部活動の地域移行について検討していく必要があることから、準備委員会を設置し議論していくこととした。

②町内の状況

○大石田中学校の部活動

運動部：野球部、陸上部、剣道部、柔道部、卓球部、ソフトボール部、バレーボール部、水泳部

文化部：吹奏楽部、書道部

○生徒数

年 度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
生徒数	1 5 5	1 4 3	1 3 9	1 3 3	1 2 9

⇒ 令和7～9は121～122見込み

○部員数 (令和2年度⇒令和4年度)

	令和2年度	令和4年度
野球部	1 8	2 6
ソフトボール	1 4	1 1
卓球	2 1	1 4
バレーボール	1 7	1 9
柔道	8	1 1
剣道	1 2	9
陸上	3 4	2 4
吹奏楽	2 3	2 1

水泳	3	0
書道	5	4

※水泳部は入部希望者がいなかった（廃部ではない）

参考）団体競技において質の高い練習には定数の2～5倍の人数が必要

○受入れが想定される町内団体

- ・大石田スポーツクラブ（総合型地域スポーツクラブ、但し該当する教室はないため新設が必要）
- ・大石田町スポーツ少年団加盟団体（大石田キンダーズ（野球）、大石田町柔道スポーツ少年団（柔道）、JSC大石田（陸上）、大石田町誠剣友会（剣道）、大石田野球クラブ（野球））
- ・大石田町書道愛好会（書道）

（2）意見交換

○アンケートについて

先行事例を参考に作成したアンケートを大石田町内の小学校4年生～中学校3年生、およびその保護者を対象に実施しました。（別紙2）

○全員加入とするか、任意加入とするか。

○種目は部活動からスライドとするか、それ以外の種目も考えるか。

○移行時期はいつごろとするか。

(3) 今後の方針

①今後の進め方について

②令和4年度の動き

(4) その他